



〒297-0024 茂原市八千代 2-10
千葉県教育庁東上総教育事務所
TEL 0475-23-8125 FAX 0475-25-3143
E-mail hkzs04@mz.pref.chiba.lg.jp
第4号

大多喜城 いすみ鉄道

平成30年12月13日(木)発行

所長訪問・指導室訪問を振り返って

総務課

所長訪問にあたり、校内の環境整備や諸表簿の御準備等ありがとうございました。総務課では、学校における適正・正確な事務処理の推進のため、主に給料・手当関係の諸表簿を確認させていただいています。一部の学校で誤った事務処理のため、戻入や追給が必要となった事例もありましたが、ほとんどの学校が概ね適正な処理をされていました。引き続き、適正・正確な事務処理の実施のため、繰り返しの確認をお願いします。

なお、学校概要説明の際、事務長や主査の方々から、学校運営への参加や共同実施の活動などについての意見等をお聞きしました。みなさんそれぞれが、「事務をつかさどる」という職務を十分に意識し、主体的に判断し、責任を持って取り組んでいることを確認しました。

今後も「事務所は、学校の応援団！」として、学校をサポートしてまいりたいと考えておりますので御協力をお願いします。

事務所は、学校の応援団！



管理課

学校訪問を学校経営及び運営の診断の機会と前向きに受け止め、御準備等いただきありがとうございました。どの学校も地教委と連携を図り、**信頼される学校づくり**に向けて特色ある取組がされていました。また、人事評価及び学校評価を効果的に活用し、教職員の育成を図り教育力の向上に成果を上げていました。特に、管理職が自ら講師となり、率先して若手育成に取り組む学校も見られました。

不祥事根絶に関しては、モラルアップを図りながら、年間を通して計画的に研修が進められていました。特に管内で8月に決定した懲戒処分事案を教訓に、飲酒運転事故撲滅のための対策を、各学校で熱心に検討していただきました。今後も、当事者意識に立った実効性のある研修の推進をお願いします。

働き方改革に関しては、教職員の出退勤時刻を客観的に把握する方法が浸透してきていました。また、部活動や会議等の在り方について見直しを図る等、業務改善に進んで取り組んでいる学校が見られました。9月策定の推進プランで示された「**適当たりの在校時間が60時間を超える教職員を『0』にする。**」という目標実現に向け、勤務時間の適正管理や業務改善への取組がより一層推進されますようお願いいたします。



指導室

学校経営においては、「社会に開かれた教育課程」を重視したカリキュラム・マネジメントの取組が進んでおり、経営の具体策が示されていました。また、人材育成に加えて、家庭・地域との連携・協働に重点を置いた学校も多く見られました。学力向上においては、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の活用とともに、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善、学習規律の確立、ノート指導に力を入れて取り組んでいる学校が多いことが本年度の特徴の一つです。基礎的・基本的な知識及び技能の定着に向けた家庭学習の充実にも、ほぼ全ての学校で取り組まれていました。

特別支援教育では、校内研修や関係機関との連携も増え、校内体制が一層充実していました。また、ユニバーサルデザインの視点を生かした、環境・授業づくりに全校で取り組んでいる学校が多く見られました。なお、個別的教育支援計画や個別の指導計画の一層の活用、評価等の実践をお願いします。

生徒指導においては、いじめに対する積極的な認知が進んできており、認知件数が増加しています。長期欠席児童生徒への対応も含め、早期発見、早期対応に努め、専門家の活用、組織的な対応等で、改善を図っていくことが大切です。



東上総地域の『平成30年度 学力向上交流会』が開催されました

11月16日（金）に、長生村立長生中学校を会場にして、約260名の参加者を迎えて、「学力向上交流会」が開催されました。長生中学校では、「『確かな学力』を身に付けた生徒の育成～実感を伴う『わかる授業』の確立を通して～」をテーマに国語科、数学科、社会科、理科、英語科、道徳の授業が全12クラスで展開されました。生徒が自分の考えを持ち、意見を出し合いながら主体的・対話的で深い学びへと学習を進める姿が印象的でした。全体会では千葉県教育庁教育振興部学習指導課より



「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について」のリーフレットをもとにした学力向上施策等の説明や、東上総教育事務所から東上総地域の課題の提示等がありました。その後の分科会では、「ちばっ子『学力向上』総合プラン（ファイブ・アクション）」の実践事例に基づき、下記の7分科会に分かれて、実践校や達人等による発表や効果的な活用方法についての熱心な協議が行われました。本学力向上交流会で得られた事柄を各学校で共通理解し、積極的に取り組むよう期待しています。

第1分科会	「学力・学習状況」検証事業（小・中学校）	【全国学力・学習状況調査のデータ活用による学力向上実践の発表】
第2分科会	魅力ある授業づくりの達人（道徳）	【達人の実践発表】
第3分科会	魅力ある授業づくりの達人（ICT活用）	【達人の実践発表】
第4分科会	確かな学びの早道「読書」事業	【実践協力校の発表】
第5分科会	「小・中・高連携の特別授業」による体験学習	【実践校の発表】
第6分科会	「家庭学習のすすめ」サイトの活用	【実践校の発表】
第7分科会	「ちばのやる気」学習ガイドの活用	【実践校の発表】

学校現場に役立つ！
情報サーチ



プログラミング教育実施に向けて③

「プログラム」とは、「プログラミング」とは、と問われたときに同僚や子供たちにわかりやすく説明することができるでしょうか。

今年度の計画訪問で、横芝光町立光中学校の赤峰研人先生が技術・家庭科のプログラミングの授業の導入として「体育祭のプログラム」作りをしました。体育祭には目的があり、目的を達成させるために意図した動きを考える必要があります。プログラム編成にも目的を達成するための意図があります。本時におけるプログラマーである生徒たちは、目的を達成させるために種目の順番をプログラムしました。保護者等に配付する「体育祭のプログラム」と「コンピュータのプログラム」をウェブで公開したことでプログラムを理解しやすくなった素晴らしい取組だと思います。

行事の実実施計画は意図した目的を達成するためのプログラムです。担当者は論理的思考力を働かせて、それら実施計画（プログラム）を作ります。これがプログラミングです。このような視点でプログラミングを考えれば、子供たちに身に付けさせたい「**プログラミング的思考**」というものが見えてくると思います。このことを理解した上で下記の手引きを読んでいただくと内容が理解しやすいと思います。手引きには授業の例示もされています。「何ができるようになるか」という育成を目指す資質・能力を明確にして授業実践を進めてほしいと思います。

また、プログラム体験については、※①コンピュータを使わないプログラミング（アンプラグド）
②ソフトを使うプログラミング ③ハードを使うプログラミングが考えられます。それぞれに長所、短所がありますので、市町村（組合）教育委員会の指導を受けながら小中学校が連携をした取組ができるとよいと思います。

※①紙等 ②ビジュアルプログラミング ③ロボット等を使ったプログラミングが考えられます。

☆ **小学校プログラミング教育の手引(第二版) (平成30年11月 文部科学省)**

現段階で一番詳細な手引です。ダウンロードをしてご活用ください。

☆ **未来の学びのコンソーシアムによる「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」**

<https://miraino-manabi.jp> (H30.11.6 現在のトップページ)